

潮騒通信

潮騒ジョブトレーニングセンター

Drugs and Alcohol Addiction Rehabilitation Center

一部 100円

どっかい生きてます!



栗原センター長と新しく職員となった仲間たちとの集合写真

巻頭言

MESSAGE from YUTAKA

メッセージフロムゆたか

田んぼの早苗から 仲間たちの回復が見える



ゴールデンウィークのこの時期になると、私は故郷の記憶がよみがえります。それは一面に水を張った田んぼでの、懐かしい田植え風景です。昔は農業機械など普及していませんでしたから、稲刈りと同じく家族総出の手作業でした。戦後間もなく農家はどこも貧しく、国は戦後復興に向けて食糧確保のために新田開発に力を入れました。当然ながら子供も家族農業の重要な担い手です。若くして父親が戦死したことで、私は実母と別れて幼くして近くの親戚筋の農家に里子に出されました。この家も大黒柱の父親を亡くしていたので、私も小学校に上がる前から農作業の手伝いに明け暮れる毎日でした。当時の田植えは隣近所の手助けを得て、竹の定規や一定の間隔で赤いしるしの付いたひもを張り、みんなが横一列になっての手植えです。子供ながらも見よう見まねでやりましたが、大人のスピードに付いていくのがやっとでした。でも、この日だけは少しばかりのごちそうが昼食に用意され、あぜ道に座って食べた塩むすびの味は今でも忘れられません。

とはいえ農作業の基本は地味な単純作業だけに、遊びたい盛りの子供には退屈で苦痛が伴います。それでも里子として肩身の狭い身ですから、日々の空腹感と飢餓感、誰にも頼れない孤独感に、我ながらよく耐えられたものだ、と振り返って思います。そんな体験が下地にあるので、潮騒JTCを立ち上げてからいち早く挑んだのが農業への取り組みでした。子供時代の「とにかく白いご飯を腹いっぱい食べたい」という郷愁から、施設が手掛けるコメ作りには人一倍精魂を傾けました。我が子を慈しむように愛情をたっぷり注ぐと、作物はしっ

かりと大地に根を張り、実りの恩恵を与えてくれます。こうした自然の営みと恵みは依存症の回復に通じる意味合いを持つ、と私は考えています。種もみの一粒が稲苗となり、それがやがて数株ごとにしっかりと根を張り、やがて田んぼ一面に黄金色の稲穂を実らせませす。最後は無数の米つぶとなって、私たちの命と暮らしを支えてくれます。私たちの回復も一人の先駆者から全世界へと広がった、多くの仲間たちとの繋がりによって支えられています。私は田んぼに植えられた早苗の風景がとても愛おしく、潮騒JTCの仲間たちの存在とダブってしまいます。

私たちは自分固有の孤独感や孤立感を埋め合わせるために、手っ取り早くアルコールや薬物、ギャンブルに依存して心身をダメにしてきました。いわば自然に反する行為にのめり込むことで、その場しのぎの刹那的な快楽を求めたわけです。でも一度ハマってしまうと、「分かっちゃいるけどやめられない」この厄介な病には特効薬はありません。それが開発されれば間違いなくノーベル賞ものでしょう。いずれ科学の発達はそれを可能とするかもしれないませんが、私たちの病の根底には科学的なアプローチでは踏み込めない、人間固有の不思議な精神世界の「落とし穴」があると、私は考えています。ここから這い上がるには自力では無理なのです。他力というか、自分を超越する何か「大きな力」に預けること。そこから自然の持つ偉大な治癒力が生まれます。それが「今日一日」の地道な努力から得られる回復力に思えるのです。すいません、今回は柄にもなく暗示的な文章になってしまいました。引き続き潮騒JTCへのご支援をよろしくお願いいたします。(法人理事長 栗原 豊)

コロナ禍における施設運営の課題と展望

追加版

「潮騒チーム・プロジェクト」が 始動して4カ月

職員とサポーターの 縦割り意識に風穴! 上



「みんなで知ろう! みんなでやろう!」をスローガンに、垣根を超えたチーム編成で困難に挑もう。ともすると過重な負担と役割を負いがちなサポーター(旧スタッフ)に配慮して、やる気のある人材を生かす「潮騒チーム・プロジェクト」がスタートして4カ月が経過しました。大規模施設のメリットを引き出す潮騒独自の新しい手探りの試みですが、課題だった縦割りの壁を越えて風通しが良くなり、コロナ禍の逆風の中でも施設全体が活性化するなど、少しずつその効果が表れているようです。「コロナ禍における施設の課題と展望」の追加版として、3回にわたりレポートします。

「潮騒JTCが大規模施設となったことで、実務機能を重視する企業化が図られたのはいいいとして、サポーターや職員間に与えられた自分のポジションや役割をそつなくこなそうという“守り”の意識が根強くなった。でも現実には、現場を抱えるアディクト(依存症者)の当事者サポーターには、不慣れな事務作業が増えて重荷になっていた。仕事も回復についての取り組みも前向きな意欲が削がれて、中途半端になってしまった。現場に片足を持つ立場からは“これではいけない”という危機感があった」

従来から本体のNPOや関連事業所にも目配りして潮騒グループ内で横断的な立場で活動し、現場が直面する課題やトラブルに対処してきた経験を持つ職員リーダーの一人、ヒトシさんが今回グループ化の取り組みに舵を切った理由を説明します。

「例えば現場で難しい問題が起こっても“そちら側の部署の問題でしょ”と関わりを持とうとしない。あるいは隣の部署で何をやっているのか分かつともしない。面倒な問題は“センター長に直談判すればいい”という安易な風潮も強くなっていた。せっかく現場で積み重ねてきた議論が生かされず、現場をよく知らない上からの一方的な判断で覆ってしまう。これでは現場でのトラブル処理に追われる

サポーターが孤立し、ますますやる気をなくしてしまう。このままでは苦勞が報われないと考えた」

現場サイドに精通していたヒトシさんは、これまで潮騒JTCが培ってきた当事者活動の経験が無駄になり、アディクトの回復に必要な緩やかな環境が失われているのを肌で感じたといいます。潮騒JTCが企業なら、センター長をトップにピラミッド型の組織運営が合理的で有効なのでしょうが、入寮者は極めて劣悪な環境下で苦難の人生を歩んできた人たちです。人一倍、人生の悲哀と辛酸をなめてきたアディクトの皆さんです。

ご承知のように潮騒JTCの底流にあるのは、欧米に根を張る治療共同体と呼ばれる独自のコミュニティの在り方です。医療や福祉の傍流に置かれ、回復が難しいと精神科医からも匙を投げられていたアルコールや薬物依存が、当事者同士の自助&相互援助活動により回復の道が切り開かれ、日本ではダルクやマックが生まれました。ここでは当事者が主役であり、医療や福祉関係者は下支え役にすぎません。世の中では常識のピラミッド型組織の考え方をひっくり返し、上下関係をつくらないフラットな人間関係と逆三角形の運営スタイルが持ち味です。

潮騒JTCは創設以来、時代のニーズを反映して高齢者を中心に入寮者が増えました。半面、小回りの利く当事者活動の原則が生かしにくくなり、関連事業も拡大したことから数年前から潮騒グループとして企業的な施設運営に踏み切りました。しかし、新たに増員した外部からの専門職員と当事者サポーターの間に齟齬(そご)や乖離(かいり)が生まれ、サポーター側には孤立感やコミュニケーション不全が見られるようになりました。仲間同士による横の連携が弱くなり、離脱メンバーも出始めました。

そうした危機感からリーダーのヒトシさんが旗振り役となり、当事者活動の意義とメリットを復活させるプロジェクトが提案されました。(次号に続く)

当事者サポーターの 職員登用

過去のマイナス体験を施設の仕事に生かす

今春から潮騒ジョブトレーニングセンターでは、当事者サポーターの職員登用が大きく動き出し、回復者カウンセラーのメリットを生かした活動が期待されます。経験豊かな専門職員と連携を取りながら、主役である入寮者の琴線に触れるケアと下支えが可能になります。当事者の苦しんできた過去が生きる、回復支援施設ならではの異色のコミュニティとして、潮騒JTCは新たな段階に踏み出しました。新しく職員となったメンバーに抱負などを書いてもらいました。



仲間を支える側で 新しい生き方を 模索

テル

潮騒 JTC の施設職員となった今の段階に至るまでに、私が乗り越えるのに辛かったことは、少しでも早く社会復帰をしたいという焦りを抑え、踏ん張ることだった。もちろん、今まで積み上げてきたものを失ってしまったことも辛かったが、外で同年代の人が活躍しているのを見ると、アルコールの問題を抱えて「どん底」まで落ち、衣食住全て支援を受けながら生きている、そうした自分の現状を受け入れることがとても辛かった。最近では、新型コロナウイルスの流行によって安定した職を失ったり、大変な思いをしながらも懸命に仕事に励んでいるであろう、社会にいる友人たちのことを思うと、自分が社会において戦えていないこの現状がとても悔しい。

アルコール依存による避けられなかった運命とはいえ、潮騒 JTC での施設暮らしは私に大きな気づきをもたらしている。同じ問題を抱えた仲間に出会えて、自分の辛い思いを吐き出し、それを理解してもらえて、どうにもならない現状を受け入れることができたこと。同じ環境下

にあって、一緒に社会復帰を目指す仲間ができたことはとても心強かった。ここでできた仲間はとても大切な存在になった。外部における入寮相談などに付き添わせてもらい、依存症者を取り巻く周りの人間の苦悩を知ることができたことも大きかった。これまでに自分が周囲に与えてしまった数々の迷惑と癒せない落胆、失望、信頼の裏切り…、これらへの反省と今後していかなければならないことを受け入れられたこと。総じて自分が依存症となったことを受け入れられたことによって、自分にしかできないことが見つかった。

それが潮騒 JTC の施設職員として生きることだ。この方向で自立を目指すことになるが、何度挫折しても潮騒の仲間が支え続けてくれたことに感謝している。今度は仲間を支える側として、自分のこれまでのマイナス体験を生かしながら、新しい生き方を模索していくことになる。仲間だからこそ、同じ問題を抱え目の前で苦しんでいる人を自分の経験から支えられるようになっていけると思う。これからも、たくさんの人に自分が支えられていることを忘れずに、アディクトに求められる「今日一日」を有意義に過ごしたい。当事者にしかできないこと、分からないことを強みにして、困っている人の力になっていけるよう努力し、同時に社会人としてここからしっかりと自立して、少しずつ自分の環境を作り直していこうと決意を新たにしています。



スタッフで培った「タフ&ラブ」の信条を生かしたい

ツカ

最初は「果たして職員となって自立できるだろうか?」という不安が先に立った。でも、施設側からの熱い期待を感じて「俺も認められたのかな…」と思い直し、決意を固め「やらせてください」となった。今は週に5日、はまなすクリニックに出向して仕事をしている。肩書は「相談員」で、仲間からの医療相談に応じたり、記録を取ったりするほか、生保受給者が多いので各自治体の福祉担当と医療券の発行などについてやりとりし、仲間の生活状況などを定期的に報告している。それらは今までのサポーターとして与えられた業務内容とたいして変わらない。ただパソコンを覚えることにはやや苦労している。

自分は社会にいた頃は職人をしており、親方として現場を仕切ったりしていた。そうしたまとめ役としての経験はあるが、事務系の仕事、ましてや医療事務は初めての仕事なので、正直、面食らっている部分もある。恐らく施設側は、自分には後輩を育てることに力を入れてほしい、と考えているのではないかな。俺はもともと上に立つ司令塔役やトップの立場は似合わない。仲間に近いポジションで、必要な医療面のサポートを充実させたいと考えている。潮騒も以前と比べ、いろんな障害を抱える仲間が増えており、病気のデパートみたいな高齢者を数多く抱えている。そう考えると俺の仕事は、ずいぶんと責任が重い気がする。

自分は潮騒 JTC につながって10年、今年50歳になる。人生大きな節目だ。施設生活で一つの歴史を歩んだことになる。栗原センター長からは「そこは自負していい」と激励された。例えば精神的に落ち込んでいる仲間の内面に潜む複雑な気持ちや、うまく言葉にできない感情の揺れや機微は、俺たち当事者だからこそ分かち合える部分がある。医療のプロとタッグを組むことで、今まで以上に精神的に追い込まれた仲間に深くコミットできるはずだ。いずれは疎遠になっている子どもたちに埋め合わせをしたいが、まずは「今日一日」。社会では失敗しては叩かれてばかり、つい耐えられずに酒に逃げた。でもこの10年の施設生活でずいぶんと鍛えられ、強くなった。スタッフ時代に培った「仲間を信じ、許し、受け入れ、待つこと」の信条(タフ&ラブ)が、職員となっても生きるだろう。



職員として幅広くデイケア活動を支えたい

アオ

潮騒 JTC に入寮して6年5カ月、今年に入り施設側から「そろそろサポーターから職員になって、潮騒を盛り立ててほしい」という提案をもらった。潮騒自体が当事者活動の意義を掘り下げ、施設運営の在り方に直接反映できるようにと、新たにサポーター制度が発足しており、私は旧来のスタッフから転じて新設のマネージャーという立場に昇格していた。その流れから職員登用のモデルケースとして、「いずれ声が掛かるだろう」と覚悟はしていた。私は63歳。まだまだこれからだという意識と、無理せず今まで通り入寮者に近いポジションでいたい、という気持ちが複雑に交錯した。でも、くよくよ考えても埒(らち)が明かない。もとより自分は物事を深く考えるタイプではない。どうせ人生はなるようにしかならない。それに深く考えると自滅することは、過去の経験からして十分すぎるぐらい分かっていた。

ならば、与えられたこのチャンスに賭けてみようと思 OK した。仕事は、これまでやっていたデイケア活動や相談体制をより充実させる、総合的なコーディネーター役がメインだ。以前からサポーター(旧スタッフ)としてデイケア活動を広くサポートしてきたので、自分なら「かゆい所に手が届く」ケアができるかな、と思う。潮騒 JTC 底流にあるのは、同じ病気を抱える仲間同士がお互いの回復を支え合うダイナミックな当事者活動だ。役職や上下関係を超えて仲間同士の気持ちが通じ合い、絆が深まることが強いては当事者たちの回復に繋がる。そのフラットな関係が一番の持ち味なので、私のような当事者から職員になる道筋が軌道に乗れば、潮騒はますます発展していくだろう。

振り返ると外部(一般社会)にいた頃は、他者とは仕事と趣味ぐらいの付き合いだったが、ここでは否が応でも生活全般において濃密な関係になる。当然ながら本音がぶつかり合う人間関係だけに、あれこれ面喰らう場面が多い。自分も含めて嫌な面が出てしまいがちだ。我慢も大事だけれど、嫌な部分を見て見ないふりをするのではなく、本音で仲間とぶつかり合うことが私たちの回復をより高みに導くのではないかな。今の心境を正直に吐露すれば、過去にギャンブルに苦しんだ過去がうそのように安定した日々を送っている。

「るみの家」めいの回復(途上)物語 こんな私でも 変われると信じて…

vol.11

(最終回)



潮騒を自分の居場所 として恩返しを決意する

邪魔だった姉への感情が 感謝へと変わる

振り返ると、私の依存症(摂食障害、窃盗症)の根っこには幼少時における家族内での不安全感があります。一番大きかったのは姉との確執でした。私の前には超えられない姉の存在がいつもあり、その陰で苦しんできました。いえ、そう思うってしまうのは私の方に問題があるのに、そこは棚上げして一方的に被害者意識を膨らませていました。だからトラブルを起こしては、両親の目を自分に向けさせてきたような気がします。

でも、ルミさんからスタッフを任せられ、「今までの歪んでいた私の感情ではなく、ここで教えてもらった正しい愛で、これからしっかり埋め合わせをしていきたい」と思うまでに成長できた私。私の依存症の根っこにあった姉との確執にも目が向くようになりました。

今では、あんなに邪魔だった姉に対しても、私の感情は大きく変わっています。私の摂食障害に一番に気付いてくれ、今も息子と関わってくれています。両親のことについても、私の分もやってくれています。とても感謝しています。

その姉への埋め合わせも、手紙という形で約1年前から始めました。まだ返事はきていませんが、ルミさんがこう教えてくれました。「埋め合わせは一度始めたら継続すること」と。私の気持ちや近況を定期的に報告していきたいと思っています。いつか返事が来ることを祈っています。

この先の未来に何が起きるか分かりませんが、私はどんなことでも全てを受け入れていくことに決めました。

6月頃から女性ハウスでは、家族との面会が始まりました。8月に入ると私にもその機会が与えられました。一泊で両親との面会ができたのです。本当は「正月には実家で…」という話もあったのですが、地元で罪を犯している私を実家に呼ぶことを当初、両親は受け入れてくれませんでした。その代わりに「千葉の方にでも行こうか」という母からの手紙で、私は行ける日を楽しみにしていました。

「るみの家」は私にとって 最高の居場所

当日、両親が迎えに来てくれ、車に乗り込むと、驚きがたくさん待っていました。母方の祖父の体調が良くないこと、だから遠出が出来ないこと、このまま祖父の所に行くということ。ドライブの車中、私は不安でした。祖父とは5年以上も会っていないので、果たして祖父は私を覚えていだろうか…。と。でも私を見ると、「めい!」と言ってくれたのです。

この外泊で、もう一つうれしかったのは、姉からのプレゼントでした。母が渡してくれた小さな包みの中には綺麗なペンダントが入っていました。私が好きなピンク色の可愛いペンダントでした。姉からの手紙はまだきておらず、私は正直不安でした。私がしてきたことはそう簡単に許されることではないので、仕方ないとも思っていました。だから姉が私のことを思って買ってくれたことが素直に嬉しかったです。

こうして両親とも、久しぶりの実家でゆっくり過ごしました。おしゃべりばかりしていたら、父に「いい加減に寝なさい」と怒られました。それもまた嬉しく、おかしかったです。この機会を与えてくれた神様(ハイヤーパワー)に感謝です。

「るみの家」での回復に向けた取り組みの生活を経て、私には決めたことがあります。ずーっと潮騒にいます。(追い出されない限りですが…)私のできることを一生懸命やっけていこうと決めました。私がしてもらったことの恩返しをしていきます。

もはや「るみの家」は私にとって最高の居場所です。ルミさんに出会えたことにも感謝しています。ルミさんの右腕にはなれないかもしれないけれど、右足の小指くらいになれるように頑張ります。吐くのを止めて健康になった私の回復はこれからもずっと続きます。楽しみです。以上が私の(回復途上の)お話でした。長めの連載となりましたが、お付き合いしていただき、有り難うございました。(終わり)

受刑者 からの手紙

「受刑者の手紙」は本来は公開されることを前提としていない私信ですが、当事者の本音が書かれており、依存症回復の第1歩である「自分に正直になること」を示す手本です。プライバシーに配慮し、掲載させていただいています。

出所の日まで無事故で生活できるよう努力する

シゲさん。毎月手紙を送っていただき感謝しております。社会復帰後には必ずシゲさんにお会いして、この気持ちを伝えたいです。そして、微力ながらもシゲさんや栗原さんのお力になればと考えております。自分の受刑生活ですが、当刑務所に来て丸10年です。今まで本当にいろんなことがありました。この10年を乗り越えてこれたのも、外で待ってくださっているシゲさんや栗原センター長のおかげです。残刑1年2カ月です。出所の日まで、無事故で生活できるように精いっぱい努力します。

ところでシゲさんに教えていただきたいことがあるのですが、自分がもし仮釈放で出所するときは、仮釈期間中は潮騒で生活すると思うの

ですが、宿泊施設や寮というのはどのようなところなのですか？1カ月の料金はいくらかかるのですか？どのような生活を送ればいいのですか？できるだけ詳しく教えていただけませんか。出所後の就職先は一応決まっています。建設会社です。その会社でも住むところは用意してくれると言ってくれていますが、帰住地が潮騒になっていますので、仮釈中は鹿嶋市に住んでいなければいけないのですよね。

シゲさん、お身体のことを第一に考え、無理をしないで頑張ってください。毎月「潮騒通信」を送っていただき、感謝しています。とても励みになります。

(東京都 Tさん)

“しおさい俳壇”に刺激を受け俳句の勉強を再開した

春分の候、その後お変わりなくお元気でお過ごしのことと思います。さて、過日、センター長が差し入れて下さった俳句の本「潮騒」が手元にまいりました。これに続き「潮騒通信・どっこい生きてます」も送付されてまいりました。本当に有難うございました。心より感謝いたしております。刺激を受けて、ここしばらくは休んでおりました俳句の勉強を、早速はじめました。そして「潮騒通信」の中の“しおさい俳壇”を毎回何よりも楽しみに、皆様方の俳句を読ませていただいています。今の私にはそのことが

一番の楽しみとなっています。私の方はまだ病気が治らず、現在も病棟の方で休養中ではありますが、それでも徐々に体調も良くなっているような気がしております。今後もしっかりと病気を治していこうと、今は頑張っています。

まだまだコロナ禍が大変な中ではありますが、センター長にはどうかお身体ご自愛の上、いつまでもお元気でお過ごしください。近いうちにまたお便りいたします。

(東京都 Hさん)

しおさい俳壇

4のお題

桜

選者 桐本石見

特選句

桜舞ふ
入学式の子供達

まこ

日本は南北に長く桜の咲くに遅速はあるが、この頃が卒業入
学式転勤など別れと出会旅立の時期でもある。校庭の桜の花吹
雪の中の卒業も入学も祝う様でメルヘンも思い小学生の元気な
声も彷彿する句。

特選句

ウコン桜
つひに求めき咲くを待つ

オノ

この詠の桜は薄黄色の鬱金桜(うこんぎくら)のことかも。今
では桜と言えば染井吉野が一般的が、この変ったウコン桜の苗
を漸く求めて今年は咲くかと待つ如何にも花を愛する句。因み
に平安神宮は向って東を右近桜、西を左近の橘と言ひ、各地の
神社ではこれに倣って右近桜、左近桜などあるので紛らわしい。

特選句

骨の友
遥かつ来し春襟裳

ゆたか

襟裳町は岬と昆布、歌謡でも名高く親潮黒潮の影響で霧や風
の強い所でもある。今では鉄道も無いこの地へ友の遺骨を届け
るのは格別の事情と思うが、遺骨が故郷へ帰るのはせめてもの
幸せかも知れない。四月の襟裳岬は歌の様に遅い春かも、しみ
じみした追悼の句。

秀逸句

今月の秀逸句

宮守と
神宮一の桜見る

あべ

宮守は神宮などの社や境内を
保全する人で何かと詳しい。そ
の案内で神木とも言える古木の
桜を見ているのか、何か由緒で
もあるのかも。因みに鹿島神宮
では幕末の志士佐久良東雄が奉納
した桜の一部が今もあると言う。

幼児の手を
引く道の桜かな

しま

桜の頃は大人も花見をするが、
花日和には幼児も散歩などした
い。母親か御婆と公園など出掛
ける。児は手を引張るほど元気
だ。微笑ましい句。

ト伝の
像や桜にウォーキング

ヒロ

塚原ト伝は五百年前の剣客で
鹿島新當流(かしましんとうりゅ
う)の創始者、宮本武蔵との鍋
蓋試合など名高い。像は鹿島神
宮駅近くにある。桜の咲く道を
ト伝像に元気づけられて走る
のも現代的な明るい句。

花びらを
肩に土産の花見かな

とら丸

花見も咲き始め、満開、花吹
雪の頃と夫々に趣きがあり、ま
た夜桜見物などして少しの花び
らを着物に付けて帰るのも風情
と言うもの。

桜咲く
寅兄さんは旅に出づ

クマ

寅兄さんは「男はつらいよ」
の寅さんのこと。フーテンと言
われる様に桜の頃は陽気に誘わ
れて旅に出る、また哀しい恋の
別れを重ねるかも。面白い句。

桜咲く
道に連立つランドセル

みく

桜の咲く頃は新学期も始まり、
桜並木の下を登校するのは見て
も可愛く、元気を貰う。ことに
新一年生は大きなランドセルで
可哀想な気もするが、微笑まし
い。田舎町の学校では校庭にも
桜があり、私も子の日が懐かし
い句。

佳作

桜咲き淡いピンクが綺麗だね	ニモ	はらはらと舞い散る桜美しき	めい
福山と一緒に歌ふ桜坂	ミニ	桜見て弁当食べる利根堤	みっちゃん
見上げると花びら舞える桜かな	チャコ	桜餅君の頬にも似たるかな	とら丸
道々に花のトンネル昼下り	れいこ	我が肩も山の桜も痩せにけり	ゆーみん
桜散るそれもピリオド意を新た	ブッチ	風に舞ふ並木の空も桜色	あっちゃん
桜散る遅れ咲くのは我も似る	あべ	花びらと見紛ふ磯の鱗かな	えいちゃん
花見酒ほほも染まるよ花の色	ちあき	中空に舞ひつ踊りつ散る桜	ナン
浦風に桜舞い散る土手の道	あきら	山桜あちらこちらに咲くを待つ	のん
桜咲くお日様も今日あたたかし	いるか	グラウンドに桜ひらひら舞いにける	ひーちゃん
幾年の年輪思ふ桜かな	くま	八重桜牡丹桜の神之池	オノ
散り際の桜に思ふ君の笑み	アオ	桜餅過走手放すごめんよね	タイチ
北浦や岸辺の桜風に揺れ	ヒロ	一片の花追う遺児も老いにけり	ゆたか
足元に舞い来る桜空仰ぐ	えび	葉桜や茶寿へ生きむと箍を締む*	ゆたか

※茶寿(ちゃじゅ)＝百八歳のこと。箍(たが)＝桶などの外側を締め固める割り竹のこと

俳句へのいざない

第十五回

「潮騒俳壇」は昨年、合同句集を刊行されて一つの記念を残しました。これからは更なる句境の高めと、次の句集の刊行を目指し研鑽努力したいものです。「俳句へのいざない」も十四回で一区切りですが、今年は地名、花、祭、気象、動物など個別の歴史謂(いわ)れなどを話題にしてみたいと思います。

先ず四月は日本人の最も愛する桜花です。今では花見と言えば桜ですが、奈良時代は遣唐使の影響で梅の花見が宮中などで行われました。平安時代に、古来から日本にある桜になったと言われます。桜は農耕に関係し、花が咲くと耕しや種蒔を始める知らせでもあったのです。また桜の「さ」は神様を意味し、神の鎮座を御倉と言ったので「くら」と「さ」でサクラの花の名になったと伝えられます。

また桜は山桜、大島桜、彼岸桜など十種を基本に変種は二百もあると言われますが、今では江戸時代に改良された染井吉野が名高いです。花見の場所も多くあり、吉野山、醍醐、三春の滝桜、薄墨桜、神代桜など歴史の変遷を込めて趣があります。

「さまざまな事思ひ出す桜かな」(芭蕉)があり、卒業や入学、転勤、就職などを思い、昔の武士は散り際の潔さを愛した、とも言われます。読者の皆さんの桜の思い出は如何。

4月のバースデー

クロ



また歳をとりました

シュン



ガンバッテマス!

タカヒロ



SJTC、仲間の皆に感謝!

ホンダ



ホンダ!!

パロ



何とか生きてます

サワ



仲間感謝!!

ココキ



がんばってやります

サキ



皆さんに感謝!!

シゲノリ



ガンバル、以上!!

ヨッシー

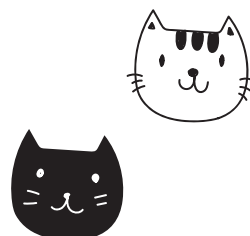


入院中・・・

サンちゃん



潮騒はいいところ!!



事務局からのお知らせ

本誌を定期的に購読することをご希望の方はぜひ「定期購読会員」のご登録をお願いいたします。私たちは、生きづらさを感じている方やそのご家族・支援者の方々、そして地域の方々に、当法人の取り組みや「依存」との向き合い方を伝えたいという思いで潮騒通信『どっこい生きてます』を発行しています。1人でも多くの方の手に届くことを願っております。

問い合わせ先

購読会員登録係 **0299-77-9099**

購読会員を
募集
しています



3月の行事

- 3月3日 水戸保護観察所スマープ(中止)
 3月11日 潮騒俳句会
 3月20日 条件反射制御法研修会(中止)

4月の行事予定

- 4月8日 潮騒俳句会
 4月20日 ソフトボール大会
 デイケアvs百寿
 4月24日 みその保育園 ボランティア

感染予防対策を徹底して行います。
 状況に応じて中止や延期になる場合があります。

献金・献品を頂いた方

(4月15日現在)

- ・ 岡見 文彦 様 ・ 高田 武義 様
- ・ 小川 登志枝 様 ・ 那須 哲男 様
- ・ 鹿嶋神の道運営委員会 様
- ・ 社会福祉法人 芳香会
 理事長 宇留野 光子 様

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。ありがとうございました。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

ごまめの歯ざしり

相変わらずコロナ禍パンデミックによる“脅し”のような生活自粛が続いている。4月下旬にはGWを脱いで東京都などの大都市に、3度目の緊急事態宣言が出された。もはや「緊急事態」の意味など薄れ、感染拡大に対する庶民の危機意識は遠のくばかりだ。どう見たって今夏の東京五輪など開催できる状況ではないのに、この国の為政者たちは自分たちの失敗を認めようとはしない。このまま後手に回った対策のツケを払われ続ける庶民は、たまったものではない▼怒りと諦め、空しさが交錯する日常にあって、「せめて3度のご飯ぐらい、美味しく食べたいものだ」と思い、外食ではなく「うちごはん」作りに精を出している。何しろ食べることは生きることの基本中の基本だから。とはいえ基礎疾患だらけの我が身だけに、食べ過ぎには注意している。それと週3日程度のウォーキングは頑張っている。でも、やはりコロナ禍の下では漠とした不安はぬぐえない▼そんな中、ふと頭に浮かんだ言葉がある。栗原センター長の「すべては回復のため」というフレーズだ。これまで潮騒JTCはいろんな試みをしてきた。失敗もあったけれど、成功したものもある。つまるところ、すべて入寮者の回復に向けた取り組み、と受け止めれば納得できる。これをコロナ禍にあえぐ庶民の暮らし事に应用すれば、「あれこれよく悩まずに人生シンプルに、気楽に生きようよ」というメッセージに拡張できる。余計な正当化や理由付けはいらない。できるだけ身軽に、シンプルに生きようとなる▼風呂敷を広げすぎかもしれないが、アディクションの世界はコロナ禍の時代に「どう生きるのか」について、このシンプルな言葉に象徴されるように、一つの態度や覚悟を示しているように思う。考えてみれば、僕らはこの世に「偶然生かされている」ようなものだ。不謹慎かもしれないが、最低限マスク、手洗い、アルコール消毒は励行しながら、コロナとの長期戦を覚悟して「どうせ感染するときには感染するのだから」と潮騒の真骨頂ともいえる「いい加減さ」を認め合う生き方を肯定したいもの▼最後に3月号は元の16ページを実現できたのですが、4月号はページ数の安定化がうまくいきませんでした。潮騒の入寮者はもちろんのこと、依存症の当事者の方、外部の方で「潮騒通信」の編集作業をお手伝い頂ける経験者がおられましたら、ぜひ潮騒JTCにご連絡ください。ご支援、ご協力をお願いします。なお、3月号の本コラムの「仲間の声を反省させたい」は「反映させたい」でした。こうした単純な校正ミスをなくすためにも、編集作業には人手と余裕が必要です。どうかよろしくお願いします。(勝)

潮騒通信 どっこい生きてます! 2021年4月号

Contents

P2 巻頭言: MESSAGE from YUTAKA

田んぼの早苗から仲間たちの回復が見える

P3 「潮騒チーム・プロジェクト」が始動して4カ月⑤ 職員とサポーターの縦割り意識に風穴!

P4 当事者サポーターの職員登用 P4 テル / P5 ツカ / アオ

P6 「るみの家」めいの回復(途上)物語 P7 受刑者からの手紙

P8 しおさい俳壇 4月のお題「桜」

P10 4月のバースデイ

P11 行事予定 / ごまめの歯ざしり / 献金・献品



■ 編集・発行: 特定非営利活動法人 潮騒ジョブトレーニングセンター
 理事長: 栗原 豊

本 部: 〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210 番地 10

事務局: 〒314-0031 茨城県鹿嶋市宮中 4 丁目 4-5

潮騒アディクションビレッジ会館 4 階

TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091

E-メール siosai2010@yahoo.co.jp

ホームページ http://shiosaidarc.com/



写真は、地元・美空野(みその)保育園の卒園式でのエイサー演舞風景。同保育園とは以前から交流が続いており、約4年前に潮騒エイサー隊が園児たちにもエイサーを教えたことから卒園式演舞が始まった。今回は人気のアニメ作品「鬼滅の刃」のキャラクターに扮し、園児たちと共にエイサーを踊り、感動的な舞台を実現した。なお、卒園式のステージも農業隊の手によるもの。

